

2023 年度上智大学法科大学院入試 (A 日程)

一般論文試験 出題趣旨・採点基準

<出題趣旨>

問題文は、「入札」という制度を、新国家プロジェクトたる「洋上風力発電」成功のカギを握る重要な要素として描いている。一方で入札制度は、これまでも「入札談合」「官製談合」など腐敗の温床となりうる悩ましい制度として議論されてきた。この入札制度のメリット・デメリットをよく把握したうえで、設問で問われたことを整理し、問題文最後の「公平性と経済合理性を満たす」ルールを提示する力をみる。

<採点基準>

【1. 新入札ルールの内容】(20 点)

→加点要素：第 1 ラウンドの入札ルール（安さ重視）やその見直し案（一定の価格をクリアしていれば同点）の内容を整理したうえでの、新ルールである。

【2. ルールの理由付け】(30 点)

→加点要素：問題文が提示する具体的な入札ルールやこれらに対する批判に目配りできている。

【3. 再生可能エネルギー施設の特異性】(30 点)

→加点要素：具体的な特異性に言及している。下記のような例が考えられる。

- ・気候変動抑制の切り札として期待される施設であること。
- ・国が落札した事業者に最大 30 年間の占有期間を与える仕組み（問題文から）。
- ・電気料金に含まれる「再エネ賦課金」により国民も負担を追っていること（問題文から）。
- ・クリーンな電力の安定供給という社会的課題を担っていること。
- ・突風が吹いた際の強度など、新しい技術的問題のクリアが求められていること。
- ・クリーンな（有毒性のない）建設材の使用がとくに厳しく求められること。

【その他】

- ・議論の流れの一貫性や主張の明確さが際立つ回答に、最大プラス 20 点
- ・字数が極端に少ない答案は大幅減点。誤字脱字は、著しい場合のみ最大マイナス 20 点。